

【様式1-1】

与論町 橋梁長寿命化修繕計画

平成28年3月
(令和4年5月更新)

与論町役場建設課

1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

本町が管理する橋梁は現在5橋あり、このうち、7年後に建設後50年を経過する高齢化橋梁が2橋、19年後には5橋中4橋が供用後50年を超えてきます。このような背景から、今後、高齢化が進む本町の橋梁に対して、従来の対症療法的な修繕および架替えの継続では維持管理コストが膨大となり多大な財政負担となることが予想されます。

■ 与論町管理対象橋梁一覧

橋梁コード	橋梁名称	管轄	路線名称	橋長(m)	架設年次	供用年数	橋種
152001	間道橋	与論町	間道線	8.6	1979	43	RC橋
011001	クズレ橋	与論町	赤崎線	10.4	1977	45	PC橋
167001	琴龍橋	与論町	前口線	54.0	1988	34	PC橋
167002	翔龍橋	与論町	前口線	37.0	1991	31	PC橋
001001	与毛田橋	与論町	供利茶花線	5.4	2020	2	溝橋

2) 目的

本町が管理する道路橋の高齢化に対応するため、従来の対症療法的な修繕および架替えから予防的な修繕および長寿命化修繕計画に基づく架替えへと円滑な政策転換を図ります。橋梁の修繕・架替えに係わる費用の縮減を図りつつ、本町の道路網の安全性・信頼性を確保することを本計画の目的とします。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	一級町道	二級町道	その他町道	合計
全管理橋梁数	1橋	1橋	3橋	5橋
うち計画の対象橋梁	1橋	1橋	3橋	5橋
うちこれまでの計画策定橋梁数	1橋	1橋	3橋	5橋
うちR4年度計画策定橋梁数	1橋	1橋	3橋	5橋

○長寿命化修繕計画対象の橋梁:全管理橋梁

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

健全度の把握については、鹿児島県橋梁定期点検マニュアルに基づいて5年に1回の実施を基本とした定期点検(近接目視による叩き点検)により把握します。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、通常点検(道路パトロール)を実施するとともに、清掃や土砂詰まりの除去など比較的対応が容易なものについては、日常の維持作業により措置します。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係わる費用の縮減に関する基本的な方針

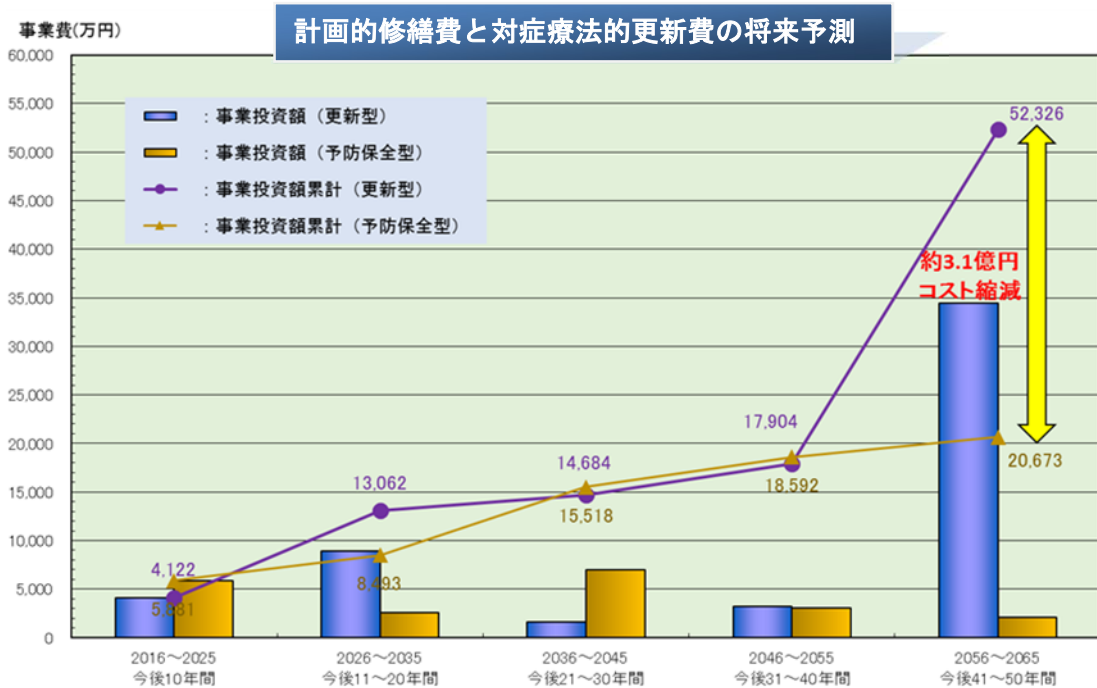
健全度の把握および日常的な維持管理に関する基本的な方針とともに、予防的な修繕等の実施を徹底することにより、修繕・架替えに係わる事業費を縮減させ、ライフサイクルコストの縮減を図ります。なお、本計画は定期点検を実施し、その結果を基に10年ごとに見直しを行います。

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期
(様式1-2による)

6. 長寿命化修繕計画による効果

長寿命化修繕計画に基づいた計画的な修繕を実施する場合と対症的に更新する場合とを比較した結果、50年間で約3.1億円(約620万円/年)のコスト削減が見込めます。
また、損傷が進行する前に適切な修繕を実施することが可能となり、道路網の安全性・信頼性が確保さ

- 1) 対症的更新の事業費 50年間総費用 約5.2億円
- 2) 計画的な修繕による事業費 50年間総費用 約2.1億円
- 3) コスト削減効果 $5.2 - 2.1 =$ 約3.1億円(約620万円/年)



※対症的に更新する場合：
修繕を実施せずに架設年次から50年経過した際に、更新(架替え)を実施する

7. 新技術等の活用方針

最先端のセンシング技術等を活用した橋梁の点検・診断方法の確立や措置・記録への活用、ビックデータ技術を活用したデータ蓄積、データに基づいたアセットマネジメントの高度化など、ICT技術を積極的に活用した業務プロセスの改善を行います。

8. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

- 1) 計画策定担当部署
与論町役場 建設課 TEL 0997-97-3111(代表)
- 2) 意見を聴取した学識経験者等の専門知識を有する者
鹿兒島大学大学院 理工学研究科 海洋土木工学専攻 教授 武若 耕司
鹿兒島大学大学院 理工学研究科 海洋土木工学専攻 教授 山口 明伸